

令和6年度 鹿角市立花輪中学校 学校評価書

<参考表示>

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
確かな学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	①規律ある中で自ら考え、伝え合い、高め合う学習集団の育成 ②生徒が主体的に学ぶ授業づくり ③ICTの効果的な活用	3	3	3	4	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの表現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	①望ましい職業観の育成 ②鹿角と関わり生きる気概の育成	3	3	4	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	①効果的なICT端末の活用推進 ②表現力、コミュニケーション能力の向上	3	3	4	4	①IoTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	基本方向4 豊かな心を育みます。	①生徒の主体性を生かした特別活動の充実 ②道徳教育の充実 ③読書活動の推進	4	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成、規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向5 健やかな体を育みます。	①望ましい生活習慣の確立 ②体力や健康への意識の向上	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	①共感的理解に基づく生徒支援の推進 ②不登校や不登校傾向の生徒への支援充実 ③特別支援教育の充実	3	3	3	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の充実	基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	①安全確保のための取組の充実 ②危機管理や不祥事防止に関する研修や情報提供 ③校舎内外の潤いある環境整備	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	①秋田県教職キャリア指標に基づいた教員の資質向上 ②ICTを活用した協働的な学び・個別最適な学びの構築 ③業務改善の一層の推進	3	3	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	①地域の歴史・文化・伝統を生かした特色ある学校づくり ②地域人材や地域素材の積極的な活用 ③保護者・地域への積極的な情報発信	4	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

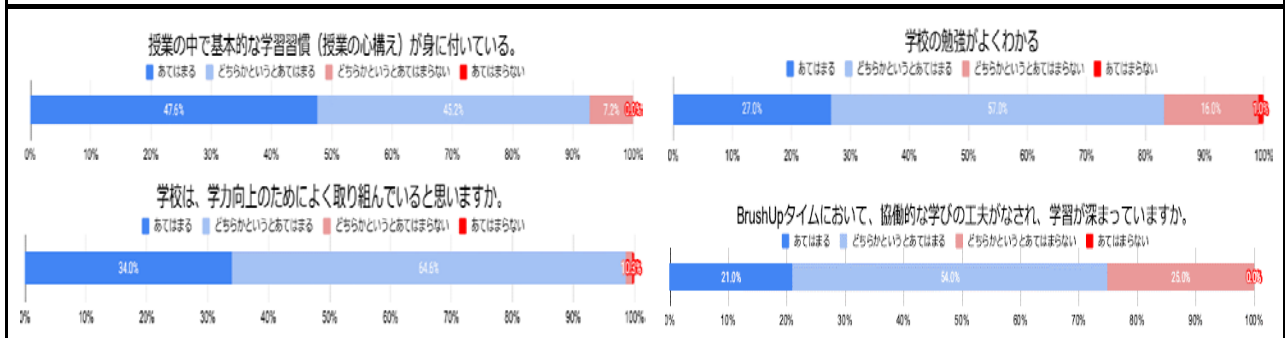
5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向 1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	授業に向かう姿勢等の基本的な学習習慣は概ね身に付いているものの、生徒同士が互いの考えを伝え合ったり、高め合ったりする活動は十分とは言えない。	中間	3	中間	3	日頃から確かな学力の定着のために「花中スタンダード」を基にした授業づくりに努めており、生徒の学習意欲も肯定的回答が多い。今後、Brush Upによる練り合いがさらに深まることを期待する。
年度末	学習への関心・意欲は高いもしくは向上傾向にある。生徒の関わり合いを通して学びを深める取組が授業で設定及び展開されてきている。	年度末	3	年度末	4	「花中スタンダード」が定着し、確かな学力づくりのための授業づくりに努めていることが、生徒や保護者アンケート、調査結果から分かる。定着面における教科の差の改善に努めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 各教員が、共通実践事項「花中スタンダード」を基に、「見通す」→「個で挑戦・皆でBrush Up」→「振り返る」の流れで授業を構想し、生徒が主体的に活躍する授業づくりを進めている。今後、それぞれの活動場面の指示や説明における発問の吟味や明確化、協働的な学びにつながる「Brush Up」の効果的な方法について実践を積み重ねたり、深めたりすることが必要である。 また、ICT機器の学習への効果的な活用を図るために、ミライシード等々のアプリの運用を積極的に進めている。より有用なアプリについて、実践→共有化を図り、効果的な学習につなげたい。					
	【年度末評価】 基本的な学習習慣が定着しており、学習に対する関心・意欲も全体的に向上傾向にあり、生徒・教師共に主体的に授業に取り組んでいる。また、今年度は、Brush UpタイムにおいてICTを積極的に活用することで、生徒が主体的に学ぶ授業づくりの在り方について実践を重ねてきている。各教科共に、アプリや機器を活用しながら、様々な活動を設定しているが、一方で、生徒自身が「Brush Upを通して考えを磨き上げている」という実感をさらに持つためには、それぞれの活動においてICTの活用が「最適」かどうかを検証しながら実践を深めていく必要がある。今後も、失敗を恐れずにTRYしながらも、効果について振り返りながら積み重ねていきたい。					

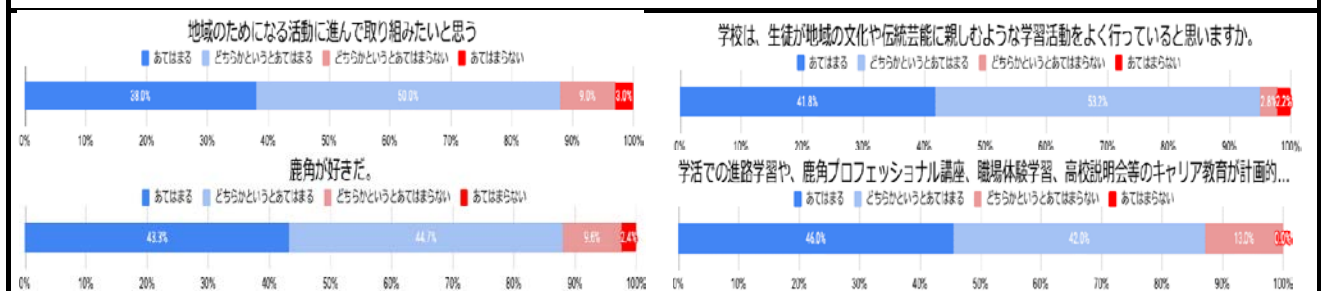
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①規律ある中で自ら考え、伝え合い、高め合う学習集団の育成 ②生徒が主体的に学ぶ授業づくり ③ICTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の形成 花中スタンダード（AAR）に基づいた授業 Brush Upタイムにおける協働的な学びの充実 ICT端末を活用した協働的な学びと個別最適な学びの工夫



基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	はなふるタイム等を通じて、生徒のふるさと鹿角に対する理解や愛着心は高まってきている。一方、進路に対する意識には課題が見られる。	中間	3	中間	3	前年度からの振り返りを生かし、七夕や子どもパレード等への積極的な参加や平元大太鼓等新たな取組を評価する。花中祭での「鹿角を元気にするプロジェクト」の発表に期待している。
年度末	伝統芸能の取組や地域課題について提案等の活動を通して、ふるさとへの理解と愛着が一層高まった。	年度末	4	年度末	4	昨年度の活動に加え、平元大太鼓等の新たに活動の幅も広がられておりすばらしい。今後、さらに内容を充実させていくことを期待する。また、小中での連携や評価対象についても検討して欲しい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 はなふるタイムでの「鹿角を元気にするプロジェクト」も2年目を迎え、昨年度の成果と課題を基に活動を展開している。「現在P」「未来P」は昨年同様学年単位で、「過去P」は通年で活動に取り組んでいる。また、「過去P」での平元大太鼓、「未来P」での企業コラボ、「現在P」での地域演劇団体との連携等、新たな取組も多く、より広角的に活動を進めることができている。今後、花中祭での発表に向けて、地域や関係機関の協力を得ながら、活動を加速させたい。 進路学習については、はなふるタイムでの交流や鹿角プロフェッショナル講座、職場体験学習（11月）等を通じて、職業観の育成を図りたい。					
	【年度末評価】 「現在P」は各学年による劇を、「過去P」は通年で「花輪ねぶた王将づくり」「花輪ばやし演奏」「平元大太鼓演奏」を披露し、「未来P」は学年毎に地域の抱える課題への提言をプレゼンした。昨年の活動を広げたり、新たな企画を立ち上げて発表したりと、限られた時間の中で生徒や教員のアイデアが生かされた活動となった。新規の取組においても、地域の指導者から協力を得ながら進めることで、滞り無く進めることができた。また、11月に、2年生が職場体験学習を実施した。昨年よりも、活動時間等が長くなったことで、より充実した体験となった。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①望ましい職業観の育成 ②鹿角と関わり生きる気概の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路学習 ・鹿角プロフェッショナル講座、職場体験学習 ・「はなふるタイム」での学習 花輪ばやし・平元大太鼓・花輪の町踊りの体験学習、花輪ねぶたの王将制作、百人一首かるたの体験学習 ・花輪ばやし子供パレードへの参加 ・花輪ねぶたの王将制作



【平元大太鼓】



【鹿角の未来についての3年生劇】

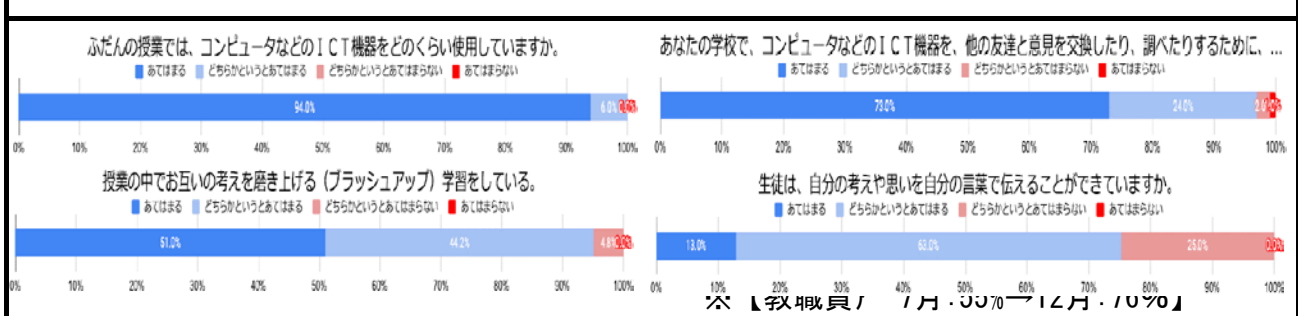


【2年職場体験学習】

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	ICT機器の積極的な活用が、様々な場面で取り入れられている。コンピュータリテラシーや自分の言葉での意思伝達に課題が見られる。	中間	3	中間	3	ICT機器の積極的かつ先進的な活用が図られている。さらに、持ち帰りなど有効的な活用を期待する。また、自分の言葉で考えを伝えるための経験や語彙能力を育成する方策を考え、改善を図ってほしい。
年度末	ICT機器の活用は日常化している。生徒・教員ともにより効果的な活用方法について実践を重ねている。	年度末	4	年度末	4	ICT機器の日常的な活用が定着されており、前期の課題解決に向けた効果的かつ適切な取組がなされている。今後、生徒が自己表現できる場をより広げることでコミュニケーション能力の向上につながると思う。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 教員や生徒も文房具のようにICT機器を自然に活用しており、ICT支援員の効果的なサポートも効果を上げている。しかし、生徒アンケートでは、「お互いの考えを磨き上げる（Brush Up）学習をしている」という問いに96%の生徒が肯定的回答をしている一方で、教師アンケートの「生徒は、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えることができているか」という問いへの肯定的回答は53%であった。また、生徒のChromebookの適切な利用（教師アンケート）やスマホやゲーム機器の使い方・ルール（保護者アンケート）では課題を感じている教師や保護者も少なくない。生徒のコミュニケーション能力の向上につながる効果的な活用や生徒の情報モラルの向上を図っていききたい。</p>					
	<p>【年度末評価】 ICT機器の活用については、前期同様後期も生徒・教員ともに日常的に活用している。教員とICT支援員の協力体制もさらに向上し、授業や業務におけるDX化が大きく進んでいる。前期の課題として上げられていた、「生徒は、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えることができているか」という問いへの肯定的回答は53→76%と向上した。授業や活動場面において、生徒がより自己表現できるような場の設定を、教員が意図的に設けたことで成果として現れたと考えられる。また、活用実践例について有益な情報も出始めており、今後も、ICT機器の活用を積極的に推進し、必然性や効果について検証しながらコミュニケーション能力の向上につなげていきたい。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①効果的なICT端末の活用推進 ②表現力、コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科におけるICTの効果的な活用の研究実践 情報モラル教育の充実 花中スタンダード（AAR）におけるBrush Upタイムの充実 自分の言葉で自分の考えや思いを伝える活動の重視 かつの絆プランによる他校の生徒との交流活動 他校の生徒会、地域の方との交流活動



【ICT機器を用いた表現活動】



【外部講師による生徒・保護者情報モラル教室】



【保護者を交えての学級活動での意見交流】

基本方向4「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校行事や生徒会活動等に主体的に一生懸命取り組んでいる生徒が多い。例年、読書に対する意欲の低さが課題となっている。	中間	4	中間	4	教師がホト役に徹し、生徒が主体となって、各種行事、活動に取り組んでいる。また、読書が好きという肯定的回答が増えており、読書環境の整備や活動時間の保証など、取組が実を結んできている。
年度末	行事や大会に向けて、学級や部活動等の集団で力を合わせて取り組むことを通して、集団の信頼関係が構築されてきている。	年度末	4	年度末	4	行事や生徒会活動の企画・運営を生徒と教員が共に協議しながら進めていることで、参画意識が高まり、主体性の向上につながっている。読書については、本に親しむ機会の工夫を引き続き図ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 今年度も、生徒会活動では、各行事や委員会活動において、生徒の意見を汲み取りながら、自治的運営を大切にすることが、生徒の主体的な活動につながっている。また、生徒同士の交流を図るために、これまでの学年集会や学年レクに加え、生徒会が中心に全校集会を開催し、お互いのよさを認め合う機会を意図的に増やしている。毎月、学級力アンケートを実施し、自学級について振り返ることで、集団としての意識の向上を図るきっかけとしている。 読書に親しむ機会を増やすために、朝読書や昼読書、図書ルームの整備と活用を進めており、生徒アンケートにおける「読書が好き」という問いに肯定的回答が増えてきている。(R05 59%→R06 69%)					
	【年度末評価】 2学期は、生徒にとって集団としての力を合わせて取り組む行事が毎月定期的で開催されるため、その活動を通して、集団としての信頼関係を構築する場が数多くあった。また、行事の企画や運営段階から生徒と教員が共に協議し進めることで、より自治的な活動として、主体的に取り組む生徒が多いと感じる。さらに、学校教育目標「仲間とともに」→生徒会スローガン「大きな花の輪へ」と、集団として向上する意識が学校全体に浸透しており、花の輪タイムや学年集会等の場を通して醸成が図られている。 例年課題とされてきた読書については、前期評価の段階で改善傾向(69%)にあったが、2学期に入ると、朝活動が読書から合唱や学習、かるた等になることも多く、読書離れが進み、数値が下がったと考えられる。昨年同時期に比べると、改善は徐々に図られてきている(R5 58%→R6 61%)が、朝読書が無くても、図書に親しむ手立ての工夫を図りたい。					

評価指標 (学校の実践課題)	具体的な取組内容
①生徒の主体性を生かした特別活動の充実 ②道徳教育の充実 ③読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を生かした学校行事や生徒会活動 学年集会や学校行事における生徒同士の交流 特別の教科道徳を中心とした道徳教育の充実 朝読書、給食前の読書の実施 図書ルームの整備と活用

自ら考え判断して行動することができている。

回答	割合
あてはまる	42%
どちらかというにあてはまる	48%
どちらかというにあてはまらない	1%
あてはまらない	9%

行事や委員会活動に主体的に取り組んでいる。

回答	割合
あてはまる	65%
どちらかというにあてはまる	27%
どちらかというにあてはまらない	3%
あてはまらない	5%

お子さんは、体育祭、花中祭、合唱、その他の学校行事に一生懸命取り組んでいると思いますか。

回答	割合
あてはまる	62%
どちらかというにあてはまる	34%
どちらかというにあてはまらない	2%
あてはまらない	2%

読書は好きだ

回答	割合
あてはまる	31%
どちらかというにあてはまる	32%
どちらかというにあてはまらない	25%
あてはまらない	14%

【他学級・他学年とのかかるた練習試合】

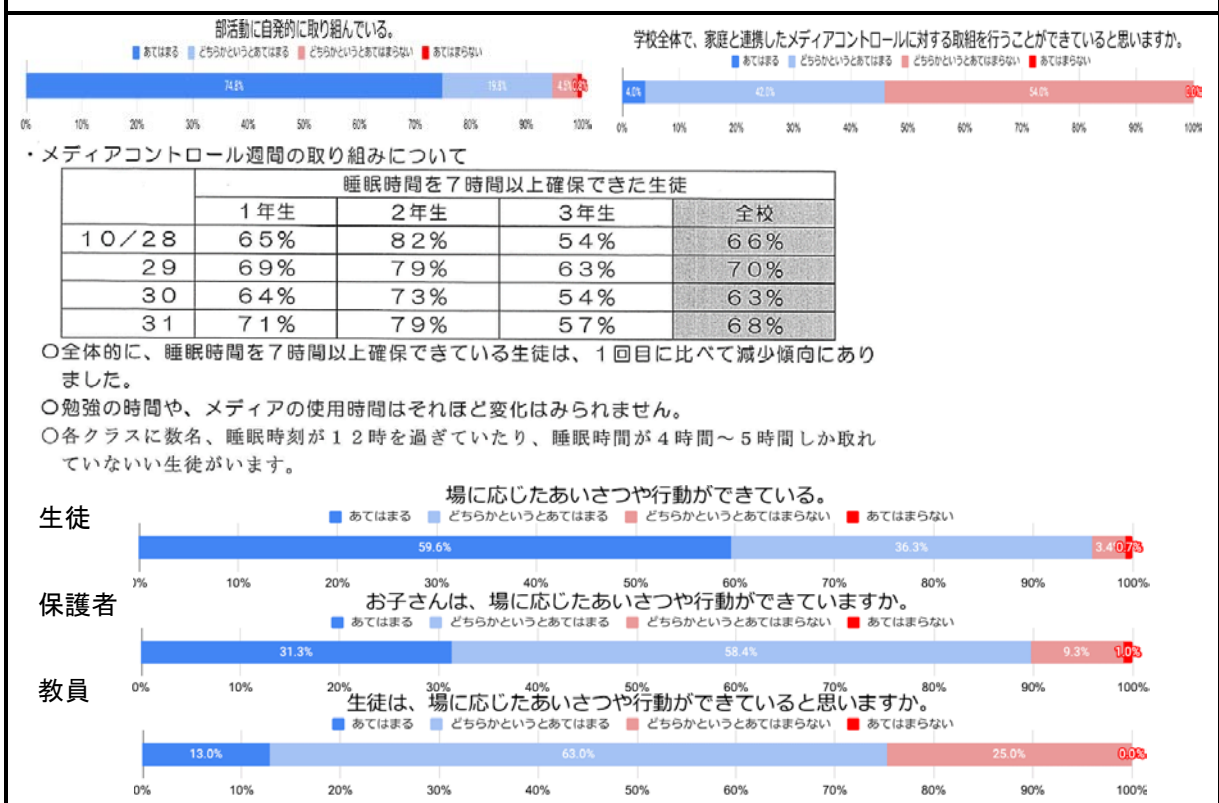
【生徒会企画「はなの輪タイム」】

【花中祭『開花』ボード】

基本方向5「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	部活動等を通して、体力の向上に務めている生徒は多い。一方、場に応じたあいさつやメディアコントロールにおいては課題が見られる。	中間	3	中間	3	部活動の活躍はめざましいものがあ、総体等の結果によく現れている。生活習慣の確立については、今後も継続的な指導をお願いしたい。心を込めたあいさつの習慣付けは、照れも出て難しいと思うが、頑張ってほしい。
年度末	全体的には望ましい生活習慣の定着が図られているが、個別に見るとゲームやスマホ等のメディア依存による体調不良等の課題を抱えている生徒が一定数いる。	年度末	3	年度末	3	望ましい生活習慣の確立、特にメディアコントロールは学校だけではできないことも多いため、これからも家庭と連携した取組の工夫が必要であると考えている。生徒の生活習慣も変化しており、その時々合った生徒指導を期待する。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 6月の第1回定期テストの時期に実施したメディアコントロール週間では、「睡眠時間の7時間以上の確保」できた生徒は7割と昨年同様であった。生徒の結果入力をICT機器を用いて行っており、データ化する上では効率的だったが、活用のための共有化に課題があった。保護者や生徒との面談にも活用しやすいように、紙媒体との連動を図るよう等の工夫を図りたい。 また、「場に応じたあいさつや行動」については、肯定的回答が、生徒アンケート96%と保護者アンケート85%に対して、教師アンケート47%と大きな差が見られた。6月に、教師間で、あいさつについて、「自ら、いつでも、どこでも、誰にでも」できるように求めていきたいとの目標の再設定を行ったことが、教員側の数値に反映されたと考える。一層の向上を図るためにも、家庭との連携を図りながら進めていきたい。</p>					
	<p>【年度末評価】 新チームに移行後も、生徒たちは部活動にひたむきに励んでいる生徒が多く、今年度は、感染症の流行も無く、健康的な学校生活を送ることができている。前期に課題として上げられたメディアコントロールについては、多くの生徒は望ましい生活習慣を身に付けているものの、睡眠時間は減少傾向にあると結果が出た。また、データの利活用について、3学期のメディアコントロール週間後に、結果を個票にして配付し、本人と保護者に振り返る機会を設けることで改善を図りたい。 「場に応じたあいさつや行動」については、「生徒」「保護者」「教員」間でまだ差が見られるものの、改善傾向（教員：7月47%→12月75%）にある。「自ら、いつでも、どこでも、誰にでも」できるように、今後も求めていながら、あいさつのレベルアップを図りたい。</p>					

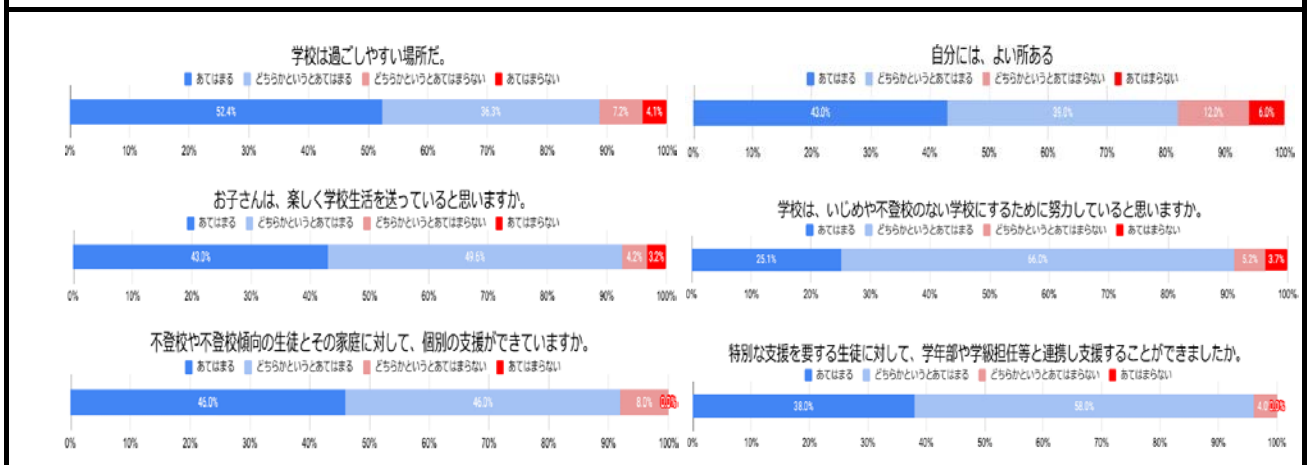
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①望ましい生活習慣の確立 ②体力や健康への意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携したメディアコントロール週間 ・生徒の実態に基づいた健康教育 ・体育授業及び運動部活動等を通しての運動習慣等の育成 ・新体カテストの実施と結果の分析 ・スポーツチャレンジデーでの他校との交流活動



令和6年度 鹿角市立花輪中学校 学校評価書
基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校は過ごしやすい場所と感じている生徒が多い。しかし、各学年で、学校や教室には入れない生徒や特別な支援が必要な生徒を複数抱えている。	中間	3	中間	3	「学校が楽しい」90%以上や「自分にはよいところがある」80%以上いることは日常の指導の成果である。年々個別の支援が必要な生徒が増えており、組織的かつきめ細かな対応を今後もお願いしたい。
年度末	生徒一人一人が抱える課題が明確になるにつれて、個に応じた支援が必要になってきており、チームで対応することで改善を図ってきている。	年度末	3	年度末	4	生徒や保護者アンケートから、生徒のニーズに応じたきめ細かな指導が行われていることが分かる。支援が必要な生徒への教育相談等の継続と同時に未然防止や居心地のよい集団づくりにも期待する。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 生徒アンケート「学校の過ごしやすさ」や保護者アンケート「楽しく学校生活を送っている」の問いに対する肯定的回答が多かった。不登校や不登校傾向の生徒に対しては、生徒支援加配教員や通級教室担当を軸に、学年や学級担任と連携を取りながら対応に当たっており、学校や学級で過ごす時間が徐々に増えた生徒もいる。しかし、新規の不登校生徒も出ており、関係機関とも連携を図りながら、今後も対応に当たっていく必要がある。 生活アンケートやHyper-QUIによる実態把握、教育相談活動、スクールカウンセラーとの面談により、生徒指導上で起こりうる課題が大きくなる前の初期段階で解決に至っている。					
	【年度末評価】 日常の対話や観察、定期的な生活アンケートや教育相談、hyper-QU等の調査を活用しながら、生徒の変化に気づき、不登校傾向生徒の早期発見及び早期対応を行ってきている。不登校傾向が予想される事案が起きた際は、チームでの協議及びスクールカウンセラーや関係機関との連携も含め、支援体制の確立を行うことで未然防止に努めてきている。現段階で、不登校及び不登校傾向の生徒は14名いるが、生徒支援専任教員と各学年部が連携を取りながら、学級に戻ったり、登校できたりすることができるよう、常に当該生徒や保護者とのつながりを継続し、適切な関わりを心がけてきている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①共感的理解に基づく生徒支援の推進 ②不登校や不登校傾向の生徒への支援充実 ③特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ hyper-Q Uによる学級の実態把握と学級経営の改善 ・ 月1回の「生活アンケート」による実態把握とその対応 ・ スクールカウンセラーを活用した支援 ・ 不登校や不登校傾向の生徒の居場所づくり ・ 家庭や関係機関との連携 ・ 教育的ニーズの把握と合理的配慮

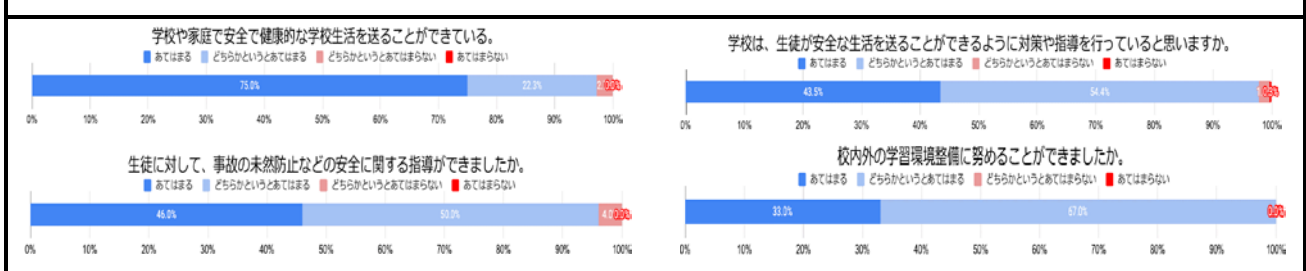


基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	「自分の身を自分で守る」「危機に対する予測」等は危機管理意識に高まりが見られる。研修や適宜の指導等を通じて、さらなる意識の向上を図る。	中間	4	中間	4	危機管理の重要性が年々高まってきており、早期対応に感謝する。いつ、何が起こるか分からない状況であり、生徒・教職員共に防災意識の向上をお願いしたい。また、小中での連携した安全指導にも努めてほしい。
年度末	定期的な点検活動や安全指導、研修会等を実施しながら、生徒及び教員の危機管理に対する意識を高めてきている。	年度末	4	年度末	4	防災学習によって、災害発生時の初期対応や自分の命を守るための行動等、生徒の危機意識の向上が図られている。今後も、計画的かつ継続的に危機管理に努めてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <p>毎月、校内の安全点検を実施し、不備や不良箇所の確認を行い、随時補修や修理を行っている。5月に、1回目の防災学習を実施し、「重ねるハザードマップ」による学校周辺や生徒の登校ルート、自宅周辺等の洪水や土砂災害のリスクについての確認したり、動画視聴による落雷発生時の初期対応や火災発生時の煙への対処についての学習したりしながら、生徒の防災意識の啓蒙を図った。</p> <p>7月に、PTAと生徒による校舎周辺の早期整備作業を実施する予定であったが、クマの出没により、中止となった。9月に同様の早期整備作業を予定しているが、内容を校内環境整備と校外環境整備に分けて開催する予定である。</p>
	<p>【年度末評価】</p> <p>1学期にクマの出没が見られたものの、2学期以降は校地付近での出没も無く、昨年に比べて落ち着いた学校生活を送ることができていた。しかし、依然として近隣での出没が見られるため、万が一に備えた対応については関係機関と連携を図りながら進めていきたい。第2回防災学習（避難訓練）では、地震発生時の初動対応学習や火災発生時における避難上の注意点について、実際の校内写真や校内図をもとに、どのようなところに危険が潜んでいるかについて、生徒同士が協議しながら理解を深めた。</p> <p>9月に、PTAと生徒による早期環境整備作業を実施した。前回クマの出没により中止になった経緯を踏まえ、校内のドアや窓拭き、玄関付近の横断歩道や駐車禁止ゾーンの整備を中心に実施した。</p>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
<p>①安全確保のための取組の充実</p> <p>②危機管理や不祥事防止に関する研修や情報提供</p> <p>③校舎内外の潤いある環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全日の定期点検 ・学校安全計画に基づいた安全教育と安全管理 ・危機管理マニュアルの見直し ・危機管理や不祥事防止に関する研修会 ・生徒の活動が見える校内掲示や学習環境の工夫 ・学校サポーターや地域学校協働活動推進員を活用した環境整備



【防災学習（ハザードマップ・落雷・火災）】

令和6年度 校内安全点検カード

学年番号	点検番号	点検場所	点検者							
49		1年B組教室								
点検項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1. 落下・倒壊等の危険箇所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
2. 電気工事、配線、ケーブルの不良	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3. 壁・床の穴・隙・汚れ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
4. ドア・扉の故障	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
5. 机・椅子・敷物・棚の故障	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
6. 水漏れ・つまり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
7. その他	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
8. 清掃状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
教 師 印										
日 付	年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
場所	鹿角市立花輪中学校 1年B組教室									
備考	教室後ろのロッカー上部がはがれている（パイプ補修中）									

【毎月の教職員による校内安全点検】



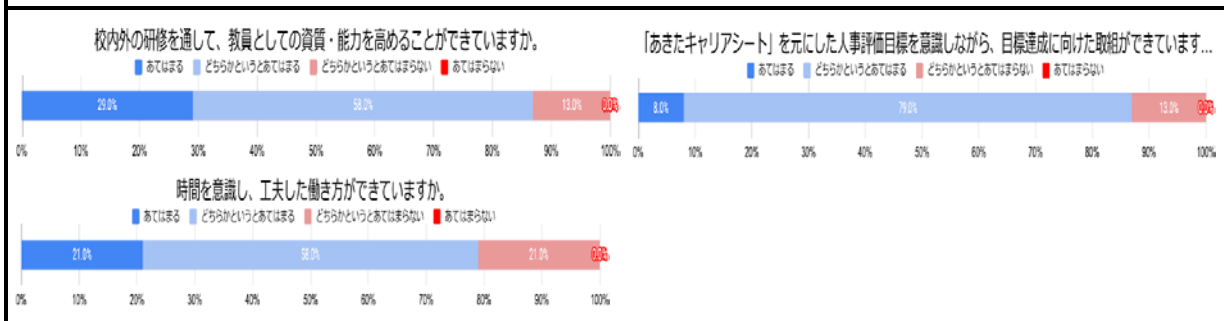
【PTA厚生部主催早期環境整備作業】

基本方向8「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	教職員一人一人がキャリア指標を基に、校内外の研修での資質・能力の向上に努めている。業務改善では、可能なことは積極的に進めている。	中間	3	中間	3	定期的な「7分間研修」等、管理職や研究主任のリーダーシップの下、研修が進められている。時間が限られている中、資質向上・課題解決と多忙化防止の両立は難しいと思うが、教職員の健康第一でお願いしたい。
年度末	校内授業研究会・授業を見合う会・7分間研修等の機会を通して、教員間に継続的な授業改善に取り組む意識が醸成されている。	年度末	4	年度末	4	授業改善や資質能力の向上のために、能率的かつ効果的な研修が進められている。これからも学校全体で指導力向上に努めながら、若年層教員の育成と来年度の鹿角授業研究会に向けて授業改善に努めてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <p>各教員が「あきたキャリアシート」を基に、各々の教職経験や実績に応じた目標を設定し、資質・能力の向上に励んでいる。研究の柱に基づいた授業研究会や授業を見合う会の実施、職員会議時に撮影した映像をもとに授業実践の良い例を紹介する「7分間研修」等を実施し、成果と課題を把握しながら、2学期の研修につなげている。</p> <p>今年度から、第2次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画の目標として、学校の最終退校時刻を19時半としている。教育課程を再編成し、会議や業務時間の確保を行ったり、見通しをもった業務改善を進めたりしている。しかし、18時45分の部活動終了から、退勤までの時間が1時間にも満たないため、今後、さらに業務をマネジメントする力を身に付けていきたい。</p>
	<p>【年度末評価】</p> <p>「花中スタンダードの共通実践」と「ICT活用の具体の積み重ね」を柱として設定し、学習アンケートや諸調査の結果をもとに、定期的に振り返りながら、授業改善や資質能力の向上に努めてきている。さらに、年5回の校内授業研究会や授業見合う会、職員会議時の7分間研修等が、改めて教員一人一人の授業の在り方について振り返ったり、新たな発想を手に入れたりする場として効果的であった。</p> <p>業務改善については、DXによる業務の効率化が見込める実践を積極的に導入したり、教務主任が授業や行事の時数管理を綿密に行うことで会議や業務時間を確保したりするなど、業務改善に効果的と思われる実践については積極的に取り入れることで、職場環境の改善を図っている。</p>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
<p>①秋田県教職キャリア指標に基づいた教員の資質向上</p> <p>②ICTを活用した協働的な学び・個別最適な学びの構築</p> <p>③業務改善の一層の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきたキャリアシート」を活用した人事評価 ・校内外研修での資質・能力の向上 ・全教科でのICTを活用した授業の研究 ・業務改善計画に基づいた取組



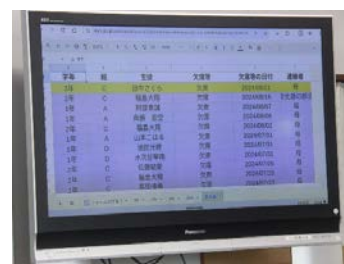
【校内授業研究会についての職員室ディスプレイ】



【授業研究会分科会とオンラインでの情報共有】



【熟議形式での研究協議】



【デジタル連絡ツールの活用と共有化】
※欠席連絡の職員室モニター表示

基本方向9「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	前年度のはなふるタイムでの実践における成果と課題を基に、地域人材を活用しながら、伝統文化・伝統芸能の継承に努めている。	中間	4	中間	4	地域の歴史・文化・伝統をよく理解し、継承と地域人材の活用によく取り組んでいる。今後も「特色ある学校づくりの推進」を期待する。また、職員の負担に配慮しつつ、これからも情報発信・情報共有を進めてほしい。
年度末	総合的な学習を中心に、地域の方々から生徒を指導していただく機会を多く持つことができた。情報発信の場や発信方法を精選しながら、効果的な情報発信に努めている。	年度末	4	年度末	4	限られた時間の中で、地域の歴史の理解や伝統文化・伝統芸能の継承、地域人材の活用が効果的かつ有機的に展開されており、そのことが特色ある学校づくりにつながっている。また、情報発信ツールが有効に活用されている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】 はなふるタイムにおける「鹿角を元気にするプロジェクト」において、昨年度からの継続実践のグループは、地域人材の活用もスムーズに進んでいる。新規のプロジェクトは、随時人材を確保しながら進めており、2学期以降連携が加速すると予想され、花中祭に向けて一層の推進を図りたい。 また、昨年度から導入したスクリレ（デジタル連絡アプリ）も、より多くの保護者に活用され始めている。今年度、ICT支援員の協力を得て開始したGoogleフォームによる欠席等の連絡方法の導入も、保護者とのスムーズな情報の共有化に効果的な影響を与えている。</p>					
	<p>【年度末評価】 今年度も、はなふるタイム（花輪ばやし、王将づくり、町踊り、平元大太鼓、劇指導、鹿角の課題発見、合唱指導、かるた）や茜染め等の多くの活動において、地域の方々から協力いただきながら取り組んだことによって、地域の歴史・文化・伝統への理解と愛着が高まった。また、その過程や花中祭や訪問合唱等での発表を通して、地域との連携と情報発信を効果的に進めることができた。今年度の活動の成果と課題を整理し、来年度の活動につなげたい。 保護者への日々の情報発信については、スクリレやメール等の情報発信ツールの導入と定着が進んだことによりスムーズに情報提供することができるようになってきている。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①地域の歴史・文化・伝統を生かした特色ある学校づくり ②地域人材や地域素材の積極的な活用 ③保護者・地域への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「はなふるタイム」での伝統文化・伝統芸能の継承 ・「はなふるタイム」での地域人材の活用 ・花中祭での「はなふるタイム」の発表 ・コンクールや福祉施設等での合唱発表 ・学校報、学年だより、花中メールによる情報発信

